



Koryo 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向三丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077
<http://kouryo-high-school.com> / メール kouryo@chibagakuen.ac.jp

少しずつ広がる学校生活

新型コロナウイルスの影響により、本校では一学期の全ての行事が中止となった。そこで、5月末から各クラス10名程度で、ローテーションを組み、放課後を利用し、花植え、野菜の苗植え、環境整備などの勤労奉仕活動を行っている。

《生徒感想》

1年 岩沢 菜々子(鮫中学校出身)
 3年ぶりに花植えをしました。仲間と協力して作業を行い、話も弾み楽しく活動することができました。「早く元気に」という思いで水やりしました。家でも花や野菜を植えてみようと思います。花の名前も水やりしながら覚えていきたいと思います。

1年 大羽沢 洗希(北稜中学校出身)
 水遣りの時には分量を気にしたり、植え付けの時には穴の深さや植え方などを考えながら作業しました。道具も安全に使い仲間と協力してできたので良かったです。

1年 小笠原 智也(市川中学校出身)
 とても楽しかったです。様々な花を植えていき、全ての花を植え終わった時は達成感がありました。また、刈り取った草を集める作業は大変でもとても疲れましたが、最後の方ではコツを掴んで楽になり、作業が楽しくなってきました。次このような機会があったらまたやりたいです。

1年 伊藤 みんと(白山台中学校出身)
 母がよく花を植えるので日頃からその手伝いをしていますが、たくさん植えるのは初めてでした。腰が疲れたけれど、先生方も含め皆で植えたり水遣りしたりしたので、皆との関係が深まったと思います。



1年 茨島 樹(大館中学校出身)
 花を植えたのは初めてで、少し緊張し失敗しなげ不安でした。しかし、思った以上に楽しかったです。花植えは、最初にやり方を教わりスムーズにできました。草集めは疲れたけれど楽しかったです。

2年 金沢 真衣(福地中学校出身)
 去年のチャレンジ講座で畑作業を経験していたので、今年はスムーズにできました。でも、苗の植え付けが思ったより上手くいきませんでした。今回植えた苗で、トマトは植えたことがなかったので、サツマイモは植えたことがなかったのですが、苗を見るのが初めてでした。育つのが楽しみです。道具の使い方もいづらか分かっていったつもりでしたが、初めて知るものもあり勉強になりました。家でもトマトやほうれん草を植えようと思っています。なので、作業は参考になりました。



2年 田名部 陽友(湊中学校出身)
 トマトの苗に支柱を立てたのですが男子3人でも土に入らない時がありました。差し込む角度も重要でただ「棒を立てる」簡単な作業だと思っていたのですが、難しかったです。マルチシートもピンと張らなければ、苗植えの時に苦労するらしく農作業はいろいろ大変でした。植えた野菜や果物が収穫できるように水遣りなどをして育てたいです。



2年 中島 萌花(東中学校出身)
 最初は、「地味な作業だな」と思いながらやる気もなく作業していました。けれども、作業を続けていくうちに少しずつ「楽しい」と思えるよう

になりました。ただ植えたりするのではなく、どのように植えるのか教わりながら知識を得ることができたので勉強になったと思います。私の祖父も、畑作業をしているので、それと似たようなものかと思いましたが、他の人と協力しながらやったので、一味違う作業となりました。今日植えた苗を枯らさないように育てて、立派な野菜を作りたいと思います。

2年調理実習

6月8日(月)、2年生の家庭総合の授業で調理実習が行われた。生徒たちにとっては久しぶりの実習で、十分な換気と感染症対策をしながらの実施となったため最初は緊張気味であった。しかし、教室での座学とは異なり、各班で行う実習は、緊張がすぐにとけマスクをしていても笑顔であるのがわかる。切り方を確認し合ったり、材料を混ぜ合わせたりと単純な作業でも生徒たちにとってはリラックスした時間となったようだ。今回のメニューは、ハヤシライスとフレンチサラダ。担当の鳥谷部先生は、国民食とも言えるカレーライスは誰もが作った経験があるだろうということ、ハヤシライスにしたとのこと。市販のルーを使用せず、短時間で調理ができるので、生徒たちが各家庭でも簡単に作れるはずと話す。また、サラダのドレッシングを手作りすることで、授業でやった「乳化」を目や舌で確認することができたのではと述べた。生徒たちは、限られた時間で準備から調理、試食、後始末に至るまで十分に楽しんだ。

《生徒感想》

2年 三浦 真幸(階上中学校出身)
 2年生になってから調理実習の授業はこれが初



めてでしたが、全体的に良かったと思います。私が担当したのは、サラダのレタスをちぎる、ドレッシングを作る、皿洗いです。レタスをちぎること皿洗いは簡単でしたが、ドレッシングを作るのが難しかったです。レシピ通りに材料を混ぜても味がしっくりこなかったり、調整しようにもどうしようにしたらよいかもわかりませんでした。結果、サラダにかけても味が薄く感じました。市販のドレッシングは計算されて作られていると思いました。

2年 栗橋 美妃(第一中学校出身)
 班の人と協力し、声を掛け合いながらできましたが、後片付けに時間がかかり、その他の作業も少し遅かったのですが、素早く効率よく進められるようにしたいです。ハヤシライスやドレッシングを最初から初めて作り、美味しい味にするまでたくさん失敗したので、その失敗を生かして次作る機会があったら、今日よりもっと美味しい物を作りたいと思います。

3年進路ガイダンス



6月12日(金)さんほう主催の3年生進路ガイダンスが行われた。新型コロナウイルスによる影響で4月の校内ガイダンスでは不安を口にしていた生徒たちだが、外部講師によるガイダンスが実施できたことで、少しはその不安が解消された様子だった。就職希望の生徒たちは、試験解禁日が一ヶ月遅れたことに準備期間が増えたと前向きに伝える一方、雇用を控える企業もあるという現状に真剣に耳を傾けていた。とにかく今やれることを精一杯やる、いつでも試験を受けられるように準備するという気持ちで挨拶や面接の実戦練習に取り組んだ。また、進学希望の生徒たちは、大学と専門学校に分かれて話を聞いた。大学希望の生徒たちは、小論文、志望動機の書き方を実践。専門学校希望の生徒たちは、希望分野の話や進路研究を行った。オープンスクールや面接試験についても、これまで通りとはいえないが、全国の高校生たちも同じ条件下で進路活動を行っている自分たちを奮い立たせた時間となった。

東奥日報取材

6月8日(月)、東奥日報の「教室に新聞を」というコーナーの取材が行われた。当日は、東奥日報の八島佳奈子記者がお見えになり、国語科の小森先生と3年生の関桃香さん(道仏中学校出身)、原彩乃さん(階上中学校出身)、谷川優成君(東中学校出身)、堀川諒輔君(是川中学校出身)の4人が取材を受けた。普段、新聞のどんな記事を読むか、進路決定を控えた3年生がどのように新聞を活用しているかなどインタビューされた。大学への進学を希望している関さんは、スポーツが好きだということで、これまではスポーツ欄に目を通すことが多かったようだが、今は、小論文対策として幅広く記事を読んでいるという。また、就職希望の原さんは、面接試験に備えて時事問題に注目しているよう。堀川君は家族も毎日新聞を読んでいるという。



ことで家族のコミュニケーションツールの一つにもなっていると話した。また、新聞についての意見を求められるとサッカー部所属の谷川君は、「朝練習などもあるのだから限られた時間を有効活用できるスマートフォンで情報収集することが多い」と述べた。また、「記事を手軽に読める所が便利なので新聞も簡潔だと若い人たちは読みやすいのではないか」と発言。逆に、新聞に目を通すことが多いと話したのは原さん。「ニュースだと聞き流してしまふこともあるが、新聞だと、字を追うことでじっくり目を通すことができるので内容が入ってきやすい」と話し、新聞についてそれぞれの率直な意見を述べた。今回の取材内容は、7月1日(火)の朝刊に掲載予定。

サッカー部快勝

途中出場の1年生が2得点と活躍

今季初勝利 向陵5-0ウルスラ



6月20日(土)、JFA県3部リーグ初戦が八戸学院大人工芝グラウンドで開かれた。本校サッカー部は、途中出場の1年生2人が追加点を取るなど、采配的中しウルスラ学院高校に見事5対0で勝利した。顧問の山本先生は、「前半は、焦りもありゴール前の工夫、アイデアがなかった。ゴールを決められない時間帯が続いて嫌な展開になりそうだったが、後半は決めてくれたので良かった。内容的には目指している面白いサッカー、魅力あるサッカーができたと思う」と試合を振り返った。次の試合に向けて抱負を聞くと「次の対戦相手、八戸高校は地区新人大会で負けている相手なので、自分たちのサッカーで勝ち、リベンジを果たしたい」と語ってくれた。

ウルスラ (0-1) 向陵
吉田 佐々木(アシスト吉田)、梅内、大下、佐藤(アシスト梅内)
次回試合は、7月5日(日)、八戸学院大人工芝グラウンドで13時30分キックオフだ。



2年 吉田 光汰(根城中学校出身)
前半の最初、少し緊張してしまい試合の入りが悪かったです。でも、皆が少しずつ声を出していき、緊張がほぐれいつもの自分に戻っていききました。前半は皆、ゴール前で焦ってしまいゴールを決めることができませんでした。13分に上村先輩がシュートしたこぼれ球を、しっかりと決めることができたので良かったです。しかし、その1点しか決めることができませんでした。次の試合の八戸高校戦では厳しい試合になると思いますが、全力でプレーしたくさん点を取ってチームに貢献したいです。

2年 佐々木 琉惟(三戸中学校出身)
ウルスラ戦は、自分たちがやりたいサッカーをすることうで5対0で勝つことができました。前半を1対0で折り返し、後半、追加点が欲しく、相手DFの最終ラインに張り付いていた時、光汰君から裏へのスルーパスがきて素早く反応し、キーパーとの1対1でも冷静に決めることができたので良かったです。次の自信に繋がるような試合ができたので良かったです。たくさん先生方、応援ありがとうございました。

1年 梅内 拓真(名川中学校出身)
前半は、チームでボールを保持できたけれども、決めなければならぬところで外してしまったりしているの、きちんと決められるようにしたいです。後半は、チームの士気も上がり、1年生の自分たちも出場機会を得て得点を決めることができたので良かったです。私は、中学生の頃から40メートル付近からシュートを狙うことを意識して練習もしていました。今回は、相手も寄せきてシュートコースがなかったのですが、思い切って打ってみました。距離もあつたので入るとは思わなかったのですが、いいコースに飛んで3点目となるゴールを決めることができました。

1年 大下 徳美(名川中学校出身)
私が試合に出たのは、後半の15分だけでしたが、しっかり自分の仕事をできたと思います。ゴール前のボールをしっかり押し込むことができました。次の試合も自分の仕事をできるように頑張りたいです。

2年 佐藤 大輝(三戸中学校出身)
今年初めての公式戦では、前半攻め込んでいたにもかかわらず決めることができなくて、カウンターの食らっでしまい点を決められそうなどころもありました。しかし、固い守備から何とか1点をもぎ取り後半に行きました。後半は、1年生がとても良いプレーをして助けてくれました。その後も攻め続け、5対0で勝つことができました。良かったです。個人的には、前半から4本くらいシュートを外していたので、後半は絶対決めたいと思っていました。前線まで上がったところに梅内君が裏にボールを出してくれて、最後5点目のゴールを決めることができました。嬉しかったです。点を決めた時、キーパーの堀川先輩が自分のところにまで来てくれたのも感激しました。

校内に彩り

華道部が校内に彩りを与えてくれている。今年度から中里裕子先生をお迎えし、月2回御指導いただいている華道部は、現在部員2人で活動。毎回、花材代もかかるがお花が好きだという櫻川桃子さん(3年・湊中学校出身)と鈴木篠さん(1年・大館中学校出身)だ。2人とも他の部活動との兼部だが、お花をどう生けるか考える時間が、本人たちの癒しの時間になっているようだ。6月23日(火)の部活動では、先生から花材を渡されると、3年目の櫻川さんは、メイソとなる花をすぐに決め、迷うことなく生けていく。入部したばかりの鈴木さんは、花器に入れてみたり、さまざまな向き、角度を試してみたりと、じっくり花と向き合う姿が見られた。生け終わると先生からの評価、手直しを経て更に良いものを作り上げ校内へ展示。この日の2人がメイソに選んだ花は異なり、高低差のある対照的な作品となった。毎回、どんな花に出会えるのか楽しめるのか楽しみと話す2人の生ける花が今後楽しみだ。



【今回の花材】
・クシヤク草
・トルコギキョウ
・ソケイ
な花に出会えるのか楽しみと話す2人の生ける花が今後楽しみだ。

